

小谷ぼろ織り振興事業

取組に至る背景・事業の目的

小谷村の農村生活の一部となっていた製品(布地)の再利用方法として、代々姑から嫁へと受け継がれてきた伝統技術「小谷ぼろ織り」。村として年2回の「織姫養成塾」を開催し、後継者育成を図っているが、更なる「小谷ぼろ織り」のブランド認知と販売促進、品質向上に必要な施策を展開。

長期的な展望として、伝統文化の維持・後継者の育成と特産商品としての価値向上、短期的な展望として新規商品の開発と生産振興で、商品販売価格の上昇と販売数の増加を目指す。また、生産者の生きがい、伝統技術継承者としての更なる意識向上を図っていく。

事業内容

- ・首都圏での「小谷ぼろ織り」作品展覧・体験会の開催
- ・ぼろ織り史の聞き取り調査編集、Webページの制作
- ・製品の品質向上と新製品を開発するために必要な備品の購入
- ・ブランド力向上とPR活動に必要な販促物の作成

「小谷ぼろ織り」は一部の地域の特性ではなく小谷村全村に伝わっていた伝統技術。旧来の織機と技術が現存する地域が減少してきていることもあり、観光、特産品開発、伝統文化維持の観点から、村として振興を図る。



【旅フェア日本 テレビ東京取材】

事業効果

○イベント出展による波及効果(3日間計)

パンフレット配布：1,000枚、ブース来場者：約700名、ぼろ織り体験：57名

○ぼろ織り生産者の増加：織姫養成講座 参加者6名

○ミシン導入によってポーチ、バッグなど立体の商品を作る会員が増加。新商品としてヘアアクセサリ、スマートフォンケースなどが新たなラインナップに加わった。

○生産するぼろ織り製品にタグ付け実施。ぼろ織りの会会員以外でも村内でぼろ織り制作をするのであれば、タグの購入・利用を可能とする。

○ぼろ織りパンフレット配布：3000枚。今後イベント時にも配布する。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

今回の事業で大規模なイベントへ参加することで、販売品への評価やどのようなものが好まれるのかマーケティングをすることができたのは収穫だった。広報ベースを作成したことで、情報発信や名刺として利用する宣材を確保することができ、村内外でのイベントや商談で話をしやすくなった。

今回の活動を経て、ぼろ織りの会の立ち位置や期待される活動について、会員が再度考える機会をえることができ、次年度活動では、各人の技術力向上のための情報共有・勉強会がスタートするなど、活動に幅が出てきている。

【選定のポイント】

平成26年度も継続して、購入したミシンを有効活用した、後継者の育成、新製品の開発に取り組んでおり、更なる認知度向上、生産体制整備に向けた取組が期待できる。

<p>団体名 小谷村(小谷村) 連絡先 観光振興課農林係：0261-82-2001 ホームページ http://www.vill.otari.nagano.jp/tokusan/weaving/</p>	<p>事業タイプ ソフト・ハード事業 事業費 1,353,275円 支援金額 947,000円</p>
---	---